



まつりどうじ
「祭童子あつまれ」
 らくぶん
楽文コンテスト

各賞受賞作品発表!!

みんなが大好きな
お祭りのこと

君のお祭りの楽しさを

教えてください。

詩・作文・歌、君にあった

方法でかまわない。

一行でも、誤字・脱字、

ぜんぶひらがなでもOK。

じょうずじゃなくてもいい。

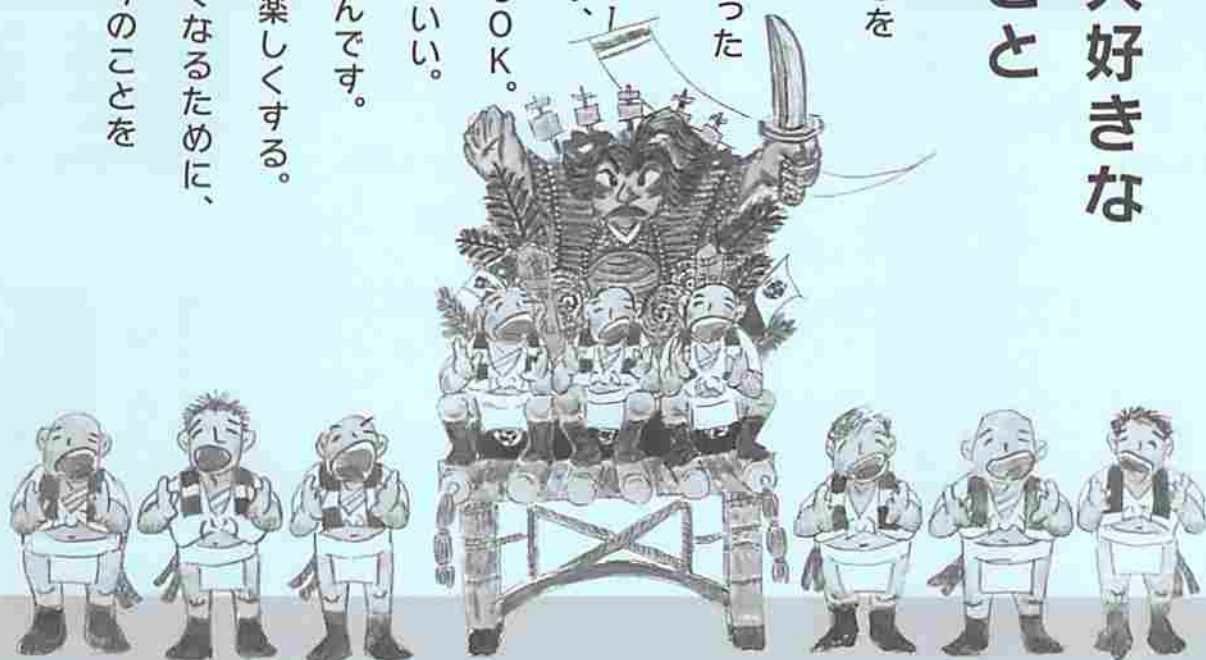
そう、「楽文」でいいんです。

お祭りは、みんなを楽しくする。

もつと、もつと楽しくなるために、

君の大好きなお祭りのことを

教えてください！



◎主催



◎特別協賛

docomo
日本アイ・ビー・エム株式会社

◎協力

博多祇園山笠振興会、
(株)毎日新聞社、RKB毎日放送(株)

◎選考委員

瀧田喜代三氏(博多祇園山笠振興会 会長)
岩松 城氏(毎日新聞社 西部本社 編集局長)
永守良孝氏(RKB毎日放送 代表取締役社長)
沢田幸二氏(KBC九州朝日放送 パーソナリティ)
大庭宗一 (NPO博多の風 理事長)

◎協賛 ... 西部ガス(株)、西日本鉄道(株)

◎後援 ...

福岡市、福岡市教育委員会、福岡商工会議所
(社)九州経済連合会、(株)岩田屋三越、九州電力(株)
九州旅客鉄道(株)、(株)九電工、コカ・コーラウエスト(株)
(株)西日本シティ銀行、NTT西日本福岡支店、(株)福岡銀行
(順不同)

第29号

平成23年11月発行

第11回

祭童子あつまれ 楽文コンテスト 各賞受賞作品発表!!

博多祇園山笠振興会賞

■「山笠でたよ。」	博多小学校1年	櫻木雄太郎
■「山かさ」	博多小学校2年	新森 光聖
■「わたしの山かさ」	博多小学校3年	菅原 凛
■「博多祇園山笠」	博多中学校1年	早川 直輝
■「山笠との歩み」	博多中学校2年	平田 章仁

毎日新聞社賞

■「やまかさにでたよ」	博多小学校1年	水上 愛理
■「松ぼやしと友だち」	博多小学校2年	大村 結子
■「DNA」	博多小学校2年	木村 快帝
■「ながれかんじょう」	博多小学校3年	白川 真凛
■「わたしと山かさ」	博多小学校4年	菅原 杏

NTTドコモ賞

■「やまがさのたいけん」	博多小学校1年	窪山奈々子
■「やまかさにでたよ。」	博多小学校1年	島崎 一花
■「稚児舞に出て」	博多小学校4年	白水知之介
■「花火を見ながら考えること」	片江中学校1年	岡村 小春
■「山笠」	博多中学校1年	水野 裕太

日本アイ・ビー・エム賞

■「やまかさにでたよ」	博多小学校1年	東 夢来
■「やまかさをみたよ」	博多小学校1年	平山 蓉
■「わっしょいわっしょい、おまつりだ」	博多小学校2年	中村 祐晴
■「楽しい夏祭り」	片江中学校1年	菅 賢吾
■「博多祇園山笠」	博多中学校2年	小関 佑弥

RKB毎日放送賞

■「やまがさ」	博多小学校1年	田中 康大
■「博多祇園山笠」	博多小学校3年	木嵐 小春
■「まい姫をやってみて」	博多小学校4年	小林真海子
■「初めてのごりょんさん」	博多中学校1年	渡辺 優花
■「大浜流灌頂」	博多中学校2年	魚住 康誉

NPO博多の風賞

■「やまかさをみたよ。」	博多小学校1年	村山陽日希
■「子ども山笠」	博多小学校3年	馬場かのん
■「ぼくと妹とかみ」	博多小学校3年	渡邊 大翔
■「当番町」	博多小学校5年	平井 優花
■「山笠にかける思い」	小田部小学校6年	波左間雄太

山笠でたよ。

●博多小学校1年

櫻木 雄太郎

7月11日はじめての山笠のうえにのったよ。すぐくたくてすこしひろくてにんぎょうの長正がおおきくてびっくりしたよ。
にんぎょうの長正のあしとくつをさわって見たらかたかったよ。
うえからしたをみるとおとなのひとが「オイサツオイサツ」とおきなこえで、おもたそ
うにやまをかついでいました。はやくおとなになっておもた
いやまをかつぎたいな。
うしろのやまのなかにはいつたらいっぱいかかったよ。
やまくずしるときおとうさんがぼたのはなどいばたをとつてくれたよ。うれしかった。またらいねんとつてほしいな。たのしみだよ。
らいねんのやまがたのしみだからはやくみたいな。
らいねんははじめての七番山笠なのでがんばりたいな。
はやくおとなになってやまくずしでとりたいたい。

博多祇園山笠振興会賞

山かさ

●博多小学校2年

新森 光聖

ぼくの町ないは、大黒ながれです。父さんもでています。ぼくは、赤ちゃんのときからいっしょに出ています。ことしはじめて、一人でできました。おしおいとりは、ちよつとドキドキして、足がおそかったのはしるのがきつくて、足がいたかったです。大きなこえで、「オッシュョイ」と言つてはしつたので、のどがかわいてつめしよにもどつてのんだジュースがとってもおいしかったです。二年は、朝山も、ぜんぶでました。三年生になったらまねきたいをもちたいです。

早く大人になって、だいがりがしたいです。まえのい山ならして、父さんのだいがりをしたのがかっこよかつたので、父さんといっしょにだいがりをしたいです。はやくらい年のなつがこないかな。今からたのしみです。山かさがだいすきです。

わたしの山かさ

●博多小学校3年

菅原 凜^{スガワラ リン}

「ヤー、オイサ、オイサ、オイサ。」
今年、わたしは山かさに全部さんかしました。

なぜなら、わたしの町内が、今年一番で当番町だったからです。

それまでは、全部さんかしたことはありませんでしたが、今年はお父さんと、お姉ちゃんとお姉ちゃんがお父さんとさんかできるのがさい後だったので、がんばってさんかしてみようと思いました。

七月一日のおしおいとりからはじまって、七月九日のみんなでおしおいとり、十日の流がきなどがんぼって走りました。

そして、十一日の朝山の日が来ました。その日、わたしとお父さんとお姉ちゃんです。お父さんとお姉ちゃんに台上がりでできると言われていたので楽しみにして見ると、ちよつとこわかったけどお父さんとお姉ちゃんといっしょにのれてどつともうれしくなりました。お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんも喜んでました。お父さんがビデオをとりながら手をふってくれたのでますますうれしくなりました。そのあと集だん山みせなどでもぜんぶ走りました。

とつともきつかったけどお父さんとお姉ちゃんといっしょに台上がりでできたこと忘れません。

博多祇園山笠

●博多中学校1年

早川 直輝^{ハヤカワ ナオキ}

僕は生後八ヶ月からお父さんになつて三歳から山笠に出していました。それから十三年間、出ています。そして今年、若手入りをしました。若手入りとは一人の大人として山笠に入るといふことです。

僕は今年、若手一年目といふことで雑用や血洗いなどのことをします。しかしこのようないい事ばかりではなく、悪い事ばかりではない事もあります。一番悪い事は子供の時より山笠に近づけることです。子供の時は招き板と書かれた自分の町内の名前が書いてある板を持って山笠の先を走ります。しかし若手入りをし若手に入れば山笠の棒につけるようになり山笠に近づけます。

今年僕が出ている西流は七年に一度の一番山です。一番山では榎田入りで一番山だけ清道内で「祝いめでた」という歌を歌えます。

山笠との歩み

●博多中学校2年

平田 章仁^{ヒラタ アキヒト}

山笠は、一四七七年に、博多の町で病気がはやり、それを治めるために病氣退散の祈願をしながら町を清め回ったことが始まりです。

僕は、四歳の頃から町内の西流から山笠に参加するようになり、最初は、全コース走りきれぬ心配だったけど、年上のお兄ちゃん達から優しくしてくれたので山笠に積極的に楽しく参加するようになり、ました。

小学生になると、子ども山笠に参加するようになり、ました。低学年の時は、台乗りをしたりして高学年のお兄ちゃん達にかついてもらっていました。高学年になると、山笠について後押しをしたり山笠をかついだりするようになり、ました。その中でも一番の大役は、二日間行われる榎田入りです。榎田入りは二日間、計六回行われます。一回目は毎年途中で止まってしまい、いつも先生達から気合をいれられ不安な気持ちになります。でも、六回目は、後押しとかつぎ手が一つになり毎年いいタイムを残してきました。みんなが一つになってやりとげた時の達成感はとてもいいもの

があり、ました。中学生になると若手になり、山についたり、直会にかたらせてもらえようになります。小学校で学んだ子供山笠がとてもいい経験だったので山にも積極的につくことができました。直会も積極的に手伝い等をすることができました。このように若手になると山につけるうれしさや、直会にかたらせてもらえる楽しさを味わえるようになり、ました。それに上の人に對する言葉使いや態度をきつちり学ぶことができました。

この山笠に出始めて僕は良くなったこと、プラスになったことがたくさんありました。達成感を味わえるように何事にもめげずに努力したりがんばるようになったり、上の人達と話がスムーズにでき、たて社会が分かるようになったりと山笠を通して僕はたくさん学ばせていただきました。

これからの山笠にも積極的に参加し、自分をもっと大きく成長させることができると努力していきたいと思ふ。

やまかさにでたよ

●博多小学校1年

水上 愛理

7がつに、はかたでは、やまかさがありません。

わたしは、おとなやまにでました。わたしは、おとなやまであがりをしてたのしかったですよ。ほんとは、でたくなかったのに、やまかさにでてみたらたのしかったですよ。わたしは、おにいちゃんとおとうさんとでたよ。

やまかさをまわっているとき、こうちようせんせいがやまかさにのつてたよ。いっしょうけんめい「おいさ」ていつてたよ。

みずをかけられていたよ。

松ぼやしと友だち

●博多小学校2年

大村 結子

「おかしなくさんもらえるよ」

同じクラスで、同じマンジョンにすんでいる友だちのその一言で、私は、博多松ぼやし

しにさん加させてもらいました。

私がおさん加させてもらった福神ながれは、四月二十八日から三十日までの三日間、夕方六時ごろから一時間ぐらい、西門ばしから店屋町のセブンイレブンの間を、たいこをたいて言立を言いながら歩いておうふくするれんしゅうがあり、毎日ジュースをもらいました。五月二日に園さいセンターであつた前夜さいでは、生まれてはじめて、かみしもとたつつけをきせてもらつて、大ぜいのおきやくさんに、たいこと言立をひろうしただけで、ふくろいっぱいのおかしをもらいました。どんたく当日の三日と四日は、朝おくし田さんを出ばつして、たくさんの町を通つて、いろいろな店や会社をまわつて、おかしやジュースをいっぱいもらいながら、夕方まで歩きました。

福神ながれは、三福神の中でも一番先頭なので、前夜さいでも、明治通りのパレードでも、一番先頭を歩かせてもらえて、そのおかげで、テレビにもうつりました。はじめで、楽しいことばかりの一週間の中でも一番うれしいことは、同じ町に住んでいるのにぜんぜん知らなかつた子と、友だちになつて、どんたくの後も友だちでいる

ことです。福神ながれのおじさんたちも、子どものころからの友だちの人もいるそうです。私は女の子なので、大人になるまで松ぼやしにさん加させてもらうことは出来ないけれど、松ぼやしで出きた友だちとは、ずっと仲よしでいたいです。

DNA

●博多小学校2年

木村 快帝

ぼくのおじいちゃん山かさで、はなどりをしていた。でんせつらしい。

ぼくはみんなから「はなどりしなさい」と言われる。

ぼくはやるきがなくて「むりやしいー」と言っていた。

だけどおじいちゃんのおかげで、いころのしやしんを見て、「すごいなあ。」

と思った。

まごのなかで男はぼくひとりだからぼくはやるんだ。がんばるんだ。

ぜったい、ぼくはおじいちゃんみたいなのはなどりになつてやる。

ながれかんじよう

●博多小学校3年

白川 真凛

8月24日近所ではながれかんじようというまつりがひらかれました。今年雨がふつたりやんだりしたのでおまつりができるかとても心ばいしました。でも3日間とも天気はよくなかつたです。お父さんがお手つたいをしてるしやてきコーナーへ一番さいしよに行きました。するとお父さんがとつてもかわいい顔で「いらつしやいいらつしやい」と言っていました。

1回百円出してチャレンジしてみました。よくしゅう中してやってみたところ、しゃてきのまにめい申しました。わたしは、すごくうれしくて大きな声でお父さんが、「おれのむすめがーとうとつたー。」と言っていました。とってもはずかしかつたです。けいひんは、ホットプレートが当たりました。おもちゃがほしかつたわたしは、少しさんねんでした。でもお母さんは、よろこんでいました。

がんばりすぎたわたしは、おなかがすいたので食べものやさんをさがしに行きました。やきとりやかきこおりフラン

クフルトやいっぱいありましたが、その中でもポテトフライがおいしそうだったのでわたしは、買って食べました。

そしてお寺の人たちがたくさんいたので見に行きました。周りの人たちもおがんでいました。わたしも手をあわせました。なんでおがんでいるのかかわらなかつたので、お父さんに聞いてみました。すると、むかし大はまでたくさんの方がびようきや海などで亡くなったそうです。その方たちをくようするためのおまつりだそうです。250年もつづいているそうです。

わたしのすんでいる大はくまちの人たちは、このまつりをつづけていくために、朝早くから夜おそくまでじゅんびかたづけなどいっしょうけんめいやつてくれているから、わたしもたのしくできていると思ひました。わたしもたくさんおてつたいしたいと思ひました。

わたしと山かさ

●博多小学校4年

菅原 杏

「オイサ、オイサ。」
今年も、わたしは山かさに参加しました。

でも、今年はいつもとほちがって、少しきんちようをしました。なぜなら今年、わたしが出ている西流つな場町は三十五年に一回しか順番がまわってこない、一番山の当番町だったからです。

そして、またわたしは、今年で山かさに参加するのが最後だというのも、きんちよう感をふやしました。

わたしは山かさが大好きで、十年間毎年必ず参加をしていました。やはり、女の子はいつかは参加できなくなりま

す。両親がはんだんして、今年最後という事になりました。

七月一日の当番町のみのおしおいとりから始まり、七月九日の全流全員でのおしおいとり、十日の流がき、十一日の朝山と、全部ががんばって走りました。

そして、十二日の追い山ならしの時、父と、妹とわたしが見送りの台上がりができました。

そ父母、父母もとてもよるこんでくれましたが、何より、

わたしが一番うれしかったです。

なかなか上がれない、台上がりが最後の年にできたからです。山小屋に入る最後まで台上がりでできたので、博多1本じめまで、台の上でできました。

その時、母とそ父母が遠くからビデオやカメラをとりながら、うれしそうに手をふっているのを見ると、ますますうれしくなりました。

そして、十三日の集だん山見せ、十四日の流がきも走って、最後の十五日、追い山の目がやってきて、朝の四時に集合し、くし田神社から出発。

全コースを走り、わたし達の町内、つな場町にある山小屋を山が通る時、父が台上がりをしていました。

少ししか見られなかったけど、とてもうれしく思いました。こうして、わたしの走って参加する山かさが終わりました。

これから、ちがう形で、山かさに参加していきたいと思えます。

NTTドコモ賞

やまがさのたいけん

●博多小学校1年

窪山 奈々子

わたしは、7がつ1にちから15にちまではかたぎおんやまがさにさんかしました。わたしがさんかしたながれは、

どいながれです。しめこみ、はつび、じかたびでさんかしました。やまがさはしんじきようじでとてもきびしくおと

こらしいまつりです。あさはやくから、やまをうごかしたりします。でも、いちにちもやすまずせんぶさんかして、おにいさんたちにほめられました。「うれしかったです。」

らいねんもがんばろうとおもいます。

やまがさにでたよ。

●博多小学校1年

島崎 一花

わたしは、こどもやまがさがたのしかったです。

でもいちばんたのしかったのはだいがりです。だいが

がりはのつてやまがうごいたときにブルブルしました。

だいがりしたときにみずがたくさんかけられました。すつこきもちよくてつめたくてすずしくなりました。く

しだいりもおうえんしました。すつこくおおきなこえでおうえんしました。

またらいねんもおおきなこえでおうえんしたいです。

「おいさ。おいさ。」「おあ。つめたい。」「よくがんばったね。」とおかあさんが

いつてくれました。うれしかったです。

さいしよはりほちゃんとし。「がんばろうね。」といいました。

りほちゃんも「がんばろうね。」といつてくれました。

さいしよはすこしきんちようしました。でもすつとやつてたらりほちゃんが「まだまだがんばろう。」といつてくれました。

わたしも「まだまだがんばろう。」といきました。りほちゃんからまだまだがんばろうといつてくれたときはうれしかったです。

稚児舞に出て

●博多小学校4年

白水 知之介

今年のどんたくで、ぼくは博多松ばやしの一つ、稚児舞でたいこをしました。

一月の顔あわせからどんたくまで、月、水、金の週三回の練習がずっとありました。練習がおわるとまい回おかしがもらえました。

稚児舞は、舞姫、大鼓（たいこ）、龍笛（りゅうてき）、小鼓（こづつみ）、大鼓（おおづつみ）の五つ役があります。各一人ずつで、「寿」

「松」「竹」「梅」の4はんです。ぼくは「竹」はんでした。稚児舞の一回のえんそうに八分半あり、さいしよはすぐてきて最後まで打つことのできるようになりました。大鼓

はさいしよの声をまちがうと全体がおかしくなるのでさいしよはきんちようしました。

一人で練習ではうまくできてたけど大鼓の4人であわせるとおとがばらばらでせんせんだめでした。だから学校の昼休みにあつまってれんしゅうをしました。

家では、まいばんおじいちゃんといっしょに練習しました。おじいちゃんが歌を歌う

のに合わせてぼくはひさをた
たいて練習をしました。

ぼくの「エーヤーハーヤー」
の「ハー」のだし方がちがう
と家族みんなでビデオに一人
ずつとつたらみんなちがった
のが楽しい思い出です。

本番はすごくたくさんの人
がいたけど思ったよりはきん
ちようせず、まちがわずにで
きました。二日間正さをほと
んどずつとしていたので足が
しびれました。二日間は声が出
なくなってきたけど、がんば
って最後までやれたのでうれ
しかったです。ぜんぶおわ
るとほつとしました。

稚児舞に出て、たくさんの人
の前にでるのがはずかしく
なくなりました。それに大き
な声が出るようになりました。
稚児の行事が全部終わって、
町内のおじちゃんに、

「知之介がよかった」とだき
しめてもらいました。がんば
ってよかったです。来年はた
いこのたたき方に気をつけて、
もつとよい音を出したいです。
そしてもつと大きな声を出し
ます。

ぼくは大鼓をしました。ぼ
くのおじいちゃん、子供の
ころ小鼓をしたそうです。ぼ
くの子供は何をするのかな。

花火を見ながら考えること

●片江中学校1年

岡村 小春

私は、毎年、自分の町内の
夏祭りに行きます。

今年の夏祭りには、浴衣を
きせてもらって行きました。
一緒に行った友達のお母さん
から、

「大人っぽいね。」と言われ
ました。嬉しい反面、少しさ
びしい感じもしました。

夏祭りでは、舞台の踊りを
見たり、屋台の物を食べたり、
抽選会に参加したりと、年に
一度の楽しみが味わえて、と
ても楽しいです。

でも、私が一番好きなのは、
祭りの最後に打ち上げられる
花火です。

その花火は大濠公園の花火
大会のように、盛大ではあり
ません。しかし、その豪華で
はない、小さい頃からずっと
見てきた花火が、私はとても
好きです。

そして、その花火を見なが
ら、毎年想像します。来年は
どんな事を考えながら、この
花火を見ているのかなあとか、
十年後も、またこうして花火
を見ているのかなあとか・・。
今年も一緒に行った、近所
の幼なじみの子と話しました。
「去年の今頃は、きつともつ

と気楽だったんだろうね。」
・・・と。小学校とは全然違
う中学校に、戸惑いを感じ、
入学してからずつと、

「小学校の方が良かった。
小学生にもどりたい。」と、
思い続けていました。でも、

もう小学生にはもどれないん
だから、いつまでも、そんな
気持ちをはきずつていたらだ
めだな・・・と花火を見な
がら思いました。

花火が終わると、「ああー
今年もおわつちやつた
な・・・」と少し悲しくなり
ます。でも、幼なじみの友達
と約束しました。

「十年後も、また一緒に花火
を見ようね。」

山笠

●博多中学校1年

水野 裕太

僕は、今年若手入りをしま
した。

今までは、若手の人たちに、
面倒を見てもらっていたけど、
次は僕が、小さい子の面倒を
見たり、山につく番でした。

初日は、子供の面倒を見て
いたら、台上りのアシストを
するため、山に近づいたら、
しばらく山を追いかけていた
ら、アシストの後に「3番台

下！」と声があがり、僕は山
につかせてもらえました。そ
の時のうれしさは、今でもお
ぼえています。

二日目は、朝山、他流昇き
がありました。

今回も山につこうとしまし
たが、山にはつけず、子供の
面倒を見ていました。

追い山ならしでは、子供の
面倒を見ていて、体調の悪い
子はいないかチェックをしま
した。集団山見せでは、子供
がダウンしやすいそうなので、
おくらしている子、きつそうに
している子を見つけたり、で
大いそがしでした。

最近山につくこともあ
りませんでした。流れ昇き
で、出番がやってきました。
なんと、みおくりの台上りを
させていただけました。僕の
できることをやり、台上りを
やりとげました。その後さら
に、山にもつけました。

最後の追い山では、最終日
なので、気合いを入れていま
したが、小学生の一人が、体
調を崩しつめ所までもどりに
連れて行きました。

でもこれで、今まで小学生
の時は若手の人達に面倒を見
てもらったことを思いだし、
「思いやり」を学ぶことがで
きました。

日本アイ・ビー・エム賞

やまかさにてたよ

●博多小学校1年

東 夢来

7がつに、はかたではやま
かさがあります。

わたしは、おとなやまかさ
にでました。ともだちと、い
つしよにはしりました。

「おいさ、おいさとさけび
ました。」とつてもみずがか
かりました。おじいちゃんど
でました。でももうおじいち
やんだからぜんたいは、はし
りませんでした。はやくひと
りで、はしりたかったです。

でもらいねんはひとりでは
しるかもしれせん。

でも7がつ15にちはでれま
せんでした。

でもてれびでみれました。
とつてもどいながれには、
たくさんのがこけていま
した。けがしていなかったら
いいな。ゆらもさいごまで、
でたかったです。

いもうとのゆづぎと、ゆら
と、おとうとのあしちやんと、
ぼうちやんと、おじいちゃん
のじいじと、いつしよにはし
りました。おかあさんのいく
みと、おばあちゃんのばあば

といっしょに、ゆらのことを
さいごまでおうえんしてくれ
ました。

やまかさをみたよ

●博多小学校1年

平山 蓉
ヒラヤマ ヨウ

7がつに、はかたでは、や
まかさがあります。

わたしは、こどもやまかさ
をみました。でているひとに
みずをかけました。わたしが
おかあさんとやまかさをみに
いったとき、みんながんぼっ
ていました。おともだちをみ
つけました。しんけんなかお
をしていました。わたしが、
おとこだったら、たぶんでて
いるとおもいます。2ねんせ
いになったらでようかな、と
おもっています。おとなやま
もみてみたらはくりよくがあ
ってすごいとおもいました。
7このながれをみてみると、
とてもがんぼっていました。
らいねんのこともやまかさも
おとなやまもすっこくみてみ
たいです。こどもやまのかさ
りはだれがかざられるのかた
のしみです。にしながれは、
ひともおおいとやまもはやく

てすごかったです。ほかのな
がれもがんぼっていました。
ちよもえびすもだいいくなが
れもひがしもなかつもかみか
わばたもとてもがんぼってい
ました。かみかわぼたのひと
はかざりやまをよくもちあげ
れるとおもいました。らいね
んもがんぼってくれるとうれ
しいです。

わっしよいわっしよい、 おまつりだ

●博多小学校2年

中村 祐晴
ナカムラ ユウセイ

どんどどどんどん、
たいこの音
ひかひかひかる、
明るいちようちん
どこからくるのか、
おいしそうなにおい
ざわさわ聞こえる、
いろんな声

わっしよいわっしよい、
おまつりだ
なんだか体がむずむずするぞ
わっしよいわっしよい、
おまつりだ
なんだか体があつくなる
花火がどーんとあがつたよ

ほくもびよーんと
はねあがつたよ
びつくりして、うれしくて

そらにはきれいな
花火がいっぱい
ほくのまわりには
にこにこがおがいっぱい
なんだかうれしくなってきた

わっしよいわっしよい、
おまつりだ

みんな大すぎ、
ほくも大すぎ
おまつりさわぎ

今日はいっぱいいたのしむぞ

わっしよいわっしよい、
おまつりだ！

楽しい夏祭り

●片江中学校1年

菅 賢吾
カン ケンゴ

僕は、毎年地区の夏祭りに
行っています。今年で二十一
回目になります。この祭りは、
地区の子供会や地域の役員の
方々が屋台を出しています。

また、町内の方による演芸
ショー、老人施設の人による
踊り、カラオケ大会、サーク
ル活動の発表があります。そ

の後、みんなが楽しみにして
いる福引きお楽しみ抽選会が
あり、最後に打ち上げ花火が
あります。

当日は、とても暑くみんな
は首にタオルを巻いて一生懸
命自分の仕事をしています。
僕が毎年、買うのは綿菓子で
す。僕は汗をかきながら待っ
ていました。汗をかいて待っ
た綿菓子の量は、顔ぐらいの
大きさが多かったが僕はあつとい
う間に食べ終わりました。

周りを見渡すと、同級生が
たくさん来ていて友達といっ
しよに見物をしました。
いよいよクライマックスに
入り、福引き抽選会が始まっ
た。今回は、何が当たるかわ
くわくして待っていました。

しかし、いっこうに名前が
呼ばれない。あきらめていた
ら僕の名前が呼ばれた。「や
ったーあ、二等が当たった。」
と喜んだ。すぐに中身を見ま
した。その中には、果物がど
っさり入っていました。今年
は最高の夏祭りだった。

この夏祭りは地域の人達の
つながりを目的として開催し
ていると思います。
今後この絆を大事にして、
長く夏祭りを続けてほしいで
す。

博多祇園山笠

●博多中学校2年

小関 佑弥
オセキ ユウヤ

今年もあつという間に七月
に入り、ついに山笠の季節に
なりました。去年、当番町の
年に若手入りした僕は、水当
番と水担いしかしたことがな
くて、また他の怖さがありま
した。

七月九日、この日はお汐井
取りでした。みんなで声を出
して箱崎宮まで行きました。

七月十日、流れがき、山を
昇いたことがない僕は、いろ
んな不安がありました。最初
は友達につき方を教えてもら
って、途中から山の近くにい
きました。山はすごく早いス
ピードで走りながら、中の山
についている人はどんどん変
わっていきます。そしてつい
ていってると、「そこでもた
もたせんで入らんか。」とお
じさんたちが言っていて、とて
も楽しくて、その日は三回入
りました。

七月十一日、朝山。朝三時
どねむい中、締め込みを締め、
朝の町に走り出しました。こ
の日は山に四回つきましました。

七月十二日、追い山ならし。
この日は水当番の仕事をか
されました。水当番で集合が
かかり、注意事項の確認をし
ました。走れる人は全コース

走ってもいいと言われたので、全コース走っては水をかけ、走っては水をかけを繰り返して、追い山ならしが終わりました。とても疲れました。

七月十三日、集団山見せ。

この日は天神の方まで行きました。

七月十四日、流れがき、明日は水当番なので、山につけるのはこの日が最後でした。

いっしょけんめい山につきました。この日は山に六回つけました。とても楽しかったです。

七月十五日、追い山。初めて山についているんな思い出をつくった今年の山もいよいよクライマックスに近づいてきました。山は櫛田をぬけてどんどんスピードを増し、あつという間に追い山は終わりました。

その後、なおらいが終わって、つめ所のかたづけをしました。初めて冷ぞう庫開けというのにも参加して、いろんなことをおそわりました。今年の山も最高でした。

RKB毎日放送賞

やまがさ

●博多小学校1年

田中 康大

ことしもやまがさにでました。

さいしよのひは、はこさきにみずをかぶらんで、はしつていった。あつくてきつかった。がんばりました。つぎのひはおうちのちかくを、やまがとおりました。ぼくもはしつた。つぎのひはあきはやくおきて、おうちのちかくで、やまがさにじぶんがのつて、おもてうらだいあがりしました。ちいさいときからやまがさにのつていたので、こわくなくてたのしかったです。おいやまならしは、とちゅうから、やまがさではしつた。みずをあびてつめたいのもあったし、つめたくないのもあった。つぎのひは、しゅうだんやまみせです。てんじんにいった。さいごは、おいやまです。またあさはやくおきた。がんばってはしつた。ぼくは、ひがしながれのやまがさのにんぎようがすきでした。かっこよ

かったです。やまがさはたのしかった、きつかった、みずがつめたいのもあった。らいねんもがんばります。

博多祇園山笠

●博多小学校3年

木嶋 小春

七月になって、山笠の季節がやって来ました。

わたしは、二才から、えびす流の下堅町から出ています。下堅町は、えびす流の中で大人も子供もふくめて一番人数の多い町なので、たくさんのお友だちとあそべて楽しいです。他の町の子供からも「うらやましいな」「いいな」と言われます。今年から、同じクラスの友だちが下堅町に入つたので、また友だちがふえてうれしいです。

今年のえびす流は三番山です。山笠の人形は百合若という若い武将の人形です。緑丸というたかもいます。まゆげが太くて、かっこいい武将です。

今年、雨の日がなかったのでよかったです。去年は、

全部雨で、わたしもみんなもさむくて、かぜをひいて、お母さんたちがすごく心ばいしていました。

山笠のき間中は、自分たちの町に帰って、お母さんの作ったごはんをバクバク食べます。そのごはんはともおいしいので、みんなおかわりします。ごはんを食べた後に「子供券」をもらいます。その「子供券」はおもちややさんやお祭りで使える券です。わたしは、今年始めて、「お汐井取り」から「追い山」までの7日間、全部出て、全部走りまわりました。

暑いし、きついし、早おきしないといけないので大へんだけど、水をかけてもらいながら走るのが楽しいし、みんなといっしょだとがんばれます。終わった後はまんぞくかんがあるの、やっぱり山笠がすきです。

まい姫をやってみて

●博多小学校4年

小林 真海子

私は、博多どんたくのちご流のまい姫をしました。まい姫の練習は一月から週三回、月、水、金曜日にありました。まい姫は五年生が二人と四年生が二人で合わせて四人でした。まい姫だけは、最初の練習の時から、たくさん大人のの人に見られながらやつたので、とてもきんちようしながら練習しました。

三月に東日本で大きなしん災がありました。しん災がおきたことで、花祭りというお祭りが中止になりました。そのころには、花祭りに出えんするためには、ほとんどおどれていたの、ほとんどおどれるようになっていました。けれども中止になったので、細かい動きを復習しました。

次は、楽器をえんそうする男の子、「はやしかた」の子たちといっしょにしました。最後のほうは、もっと大きな体育館に行って練習しました。い動するときには、まい姫どうしてたくさんおしゃべりしながら行つたので、楽しかったです。ほかに、帰つてからも習つたところを練習して

いたので、9時をすぎてからねるのが、しゅう慣になつてしまいました。

本番では、はかまをはくのですが、落ちないように、かたくおなかにまいていたので、すぐおどつていて、きつかったです。車に乗るときは、車のでん上に頭につけているものがあたらないう、気をつけながら、乗らなければいけません。一日に約二十回ぐらいおどつたので、すぐきつかったです。でも、見る人は、初めてだから、一回一回を大切におどりました。いろいろの人に、見てよろこんでもらえて、がんばって練習してよかったです。見たいテレビが見られなかったりもしたけど、最後は、お友だちもでき、知らない人にもよろこんでもらえ、おやつもたくさんもらえて、やってよかったなと思いました。また、来年もあるけれど、楽しくがんばりたいです。

初めてのごりよんさん

●博多中学校1年

渡辺 優花

「オイサ！」「オイサ！」の声が開いてくると、なんだ心が弾みます。また、この季せつがやってきました。

私は、毎年山笠に出ていました。でも、今年から、ごりよんさんのお手伝いをする事になりました。

ごりよんさんは、男の人達が山笠に行っている間に、食事のしたくをして、帰ってきたらご飯がすぐ食べられるように用意しています。家でも、毎日しめこみや法被を洗濯しています。

私の町内には、数名の先生が山笠と、ごりよんさんで参加しています。先生達は、町の行事にも参加していて、すごいと思いました。

私は、部活が毎日あったので、ごりよんさんのお手伝いは1回しか行けません。

その日のご飯は、「豚キムチなべ」でした。小さい子達の面倒を見ながら、料理のお手伝いをしました。「豚キムチなべ」のいいにおいがしてきたので、お腹のすいていた私にはたまらなくいいにおいでした。

私は、お皿を並べたり野菜を切ったりしました。およそ100人の料理を作るので、お皿もたくさんいるし、一番おどろいたのは具材の量でした。家では、あんな量を見たことがないし、それだけの量を料理しているごりよんさんはすごいと思いました。私は、お肉をなべの中に入れるお手伝いをして、特にお肉の量が見たこともないぐらいにいっぱいあって、びっくりしました。全部できあがった後に、おかしをいただきました。毎年、私も一緒に食べていた直会での食事は、もう食べるころとができないけど、今回ごりよんさんのお手伝いは、私にとって、とてもいい経験になりました。

ごりよんさんの皆さんは、皆さんは、とてもやさしくて親切におしえてくれました。来年もごりよんさんのお手伝いをしたいと思いました。

大浜流灌頂

●博多中学校2年

魚住 康誉

僕の住んでいる地域では、大浜流灌頂という夏祭りが毎年、行われています。僕も小さい頃から父やいとこと一緒に射的やくじや輪なげを楽しんでいました。

この祭りは、江戸時代にえき病やききんが発生して多くの人々が亡くなったため、当時の人々はおはらいをするため東長寺におもむいてお祭りを始めました。それがこの祭りの始まりです。

今では、多くの人達が集まり新聞やテレビで取り上げられるような祭りです。しかし、昭和四十年代頃は露店が四店程しかなく、昭和五十年代頃には店もなくなつて、祭り自体がなくなつてしまい、祭壇だけになりました。

平成に入つて浜友会という町内の青年団の集まりができ、その人々が祭りを再開したそうです。金魚すくいやヨーヨーやゲーム等、手作りの店で子供達が喜んでいました。五年後には、婦人会や子供会の保護者も店を出すようになりました。少しずつ露店も増え、今のよう祭りになつていったと

知り、本当に地域の人々が少しずつ築き上げてきた祭りなんだなあと思いました。

今年も僕は、祭りに出掛けてカレーや焼き鳥を食べて友達と久しぶりにあうことができました。とてもうれしかったです。地域の人々が協力をして築いてきた祭りなので、ほくもそれに協力できるように努力して、祭りが長く続いていってほしいです。

NPO博多の風賞

やまかさをみたよ。

●博多小学校1年

村山 ムラヤマ 陽日希 ヒツレキ

ぼくは、こどもやまかさを
みました。おともだちがでて
うれしかったです。みずしぶ
きがきもちよかつたけどつめ
たくてたのしかったです。

「おいさ。おいさ。」とおお
きなこえでした。すこくおお
きなこえでした。すこかつた
です。ぼくは、こどもやまか
さにでてないけどみるのもの
のしかつたです。おともだち
のおかあさんが「よくがんば
ったね。」といっています。
いいなとおもいました。やま
かさにでてるひとは、すこい
とおもいました。

女の子が子ども山笠にさん
かできるのは、三年生までで
す。私もさんか出きるのは今
年がさいごになりました。

お兄ちゃんやおねえちゃん
が一年生のときから子ども山
笠にさんかしていたので、私
もほいくえんのときからさん
かしていました。子ども山笠
もはかたぎおん山笠も一年に
一どの私の楽しい行じの一つ
です。

今年の子ども山笠のテーマ
は、東日本ふっこうのほまれ
でした。
東北の人たちに、はかたか
ら少しでも元氣をおくれたら
というこでこのテーマにな
りました。

子どもの山笠

●博多小学校3年

馬場 ババ かのん

私は今、小学校三年生です。
お兄ちゃんは六年生、お姉
ちゃんは五年生です。

ぼくの長く長くのびたかみを
切ろうとお父さんとお母さん
が話していました。ぼくは本
当は切りたくありませんでした。

でも、山かさに出るために
仕方がなくて、「少しだけな
らいいよ。」とぼくは言いま
した。「ジョリジョリ」とい
う音は、お父さんに切っても
らうためにすわって待ってい
る時に聞こえた音でした。妹
は、さい近ハサミで何でも切
るのが大すきで、ぼくのかみ
まで切ってしまいました。妹
がはん対がわも切ろうとした
のでぼくは「やめてくれ。」
とさげびました。お父さんと
お母さんはびっくりしていま
した。妹は悪い事をしたとは思
ってなくて「まだ切る。」と
言っていないました。お
かしくなったらいけないので、
いそいでかみを切りに行く事
にしました。

ぼくと妹とかみ

●博多小学校3年

渡邊 ワタナベ 大翔 ヒロト

「いいとー。」と妹の声と
同時に「ジョリジョリ」と耳
の近くでへんな音が聞こえま
した。お母さんの「アーツ」
と言う声にぼくは、何がおき
たのかわかりませんでした。
その日は、山かさに向けて

お店の人に切り方について
話していた時に妹が「トイレ
。」と言ったので、お父さ
んがづれて行きました。その
時、お店の人が切りはじめま
した。
「ジョリジョリジョリ」と
何回も音がしました。そして、
かみを見て短くなりすぎた
かみにおどろきました。お父
さんがもどつてきて、「けつ
こう切ったな。」と言ったの

で、ぼくは本当にいやになり
ました。こんなにいやな気持
ちになったのは全部「妹のせ
いだ」と思いました。

山かさの集合時間が近づい
てきたけど、ぼくはみんなか
らかみの事を何かいわれたら
どうしようかとふ安でいっぱ
いでした。でも、お父さんと
お母さんから「大じようぶだ
から行ってきなさい。」と言
われてがんばって行きました。

集合時間でドキドキしてた
けど、だれにも何も言われな
かったのでよかったです。

山かさまで水をかかりながら
走っていると、かみの事はわ
すれていました。水をかかると
と楽しくなりました。走りお
わった後にごはんを食べて家
に帰りました。おいしかった
です。山かさに行っていた時
はかみの事をわすれていたの
に、家に帰ったらすぐに思い
だしていやになりました。ま
た次の日も、山かさまで走っ
ていたら全ぜんかみの事は、考
えなくなっていました。

今年、かみを切って山か
さに出たかと思っていた
けど、山かさに出たおかげで、
ゆうきを持てたのでよかつた
です。

また、来年もがんばります。

当番町

●博多小学校5年

平井 ヒライ 優花 ユウカ

今年、私の町内は、大黒流
の当番町でした。私の町内は
「麹屋番（こうじやばん）」
という名前です。私は「当番
町」というのは初めてだった
し、あまりどういう事をする
のかなど分かっていませんで
した。

そして7月1日お汐井取り
がありました。1日にお汐井
取りに行くのは、当番町だけ
で、山かさが無事に終わるよ
うにと願いをこめて取りに行
くお汐井です。当番町の仕事
は、山かさを守り、大黒流12
カ町の町総代、取締の方々を
もてなし山かさをより良くす
るための意見交かんなどをし
ます。

7月10日から山かさをかき
始めます。私は友達と一緒に
見えました。私がびっくり
したのは12カ町の町内全てが
手打ちに来ていた事です。中
には同じゆう生などいいて、
おたがい顔をチラチラ見なが
らしたりする事もありました。
それにくらべて大人達の顔は、
山かさが始まるぞ！という熱
いいきこみが伝わってきまし
た。私は山をかくわけでもな

いし、ましてや出てもないのに「10分前」と聞いた時はそれほどどきどきしなかったのに、それが「10秒前」の時にはもうどきどきして本当に表しきれないような気持ちになりました。そして、「1・2・3ヤーツ」という声にのせて山かさが走り始めました。本当に山が走っている時はかき手と山が一体化となり目の前を駆けぬけていく様子を見ると、もうむねが熱くなりま

す。

15日、「追山」私は早く起きて追山を見に行きました。最初は空も暗くてまだ少しねむ気が残っていました。でもそのまわりに多くの人がいて山がくるのをいまかいまかと待ち望んでいる様子が伝わってきました。私も山がくるのを同じ気持ちで待っていました。そして山が来た時、台上がりしていた人の泣きそうなのに満足しきったあの顔、今でも忘れることの出来ないほど、印象に残っています。

そしてその後「山くずし」がありました。私は知らなかつたけど今までに感じたことのない気持ちを味わえました。とくに、町総代、取締、赤手拭の方々の顔は「もうなにもくいはない」というのが伝わってきたような気がしま

した。「博多祇園山笠」今から770年前から始まったこの伝とうある「熱い男の祭」いつまでも私が大人になっても、おぼあちゃんになっても博多の町の代表としてこれからもずっと受けついでいってほしいです。

山笠にかける思い

●小田部小学校6年

波左間 雄太

僕は土居流の下土居町で山笠に参加している。六才の頃から今年でもう六年たった。毎年七月がとても楽しみだ。

僕には四つ年上の兄がいる。普段はケンカしたり、怒られたりして一緒にいるのがイヤな時がある。しかし、山笠の時はちがう。若手の中にいる時の兄はカッコいい。きびきび動いて、目上の人にきちんと話したり、僕たちのお世話や、たきだしを作ってくれるお母さん達ごりよんさんにシヤキツとあいさつをする。一生けん命走り通したり、水はっぴや長はっぴ姿の兄。山をかいたり、まわりの安全確認、見学の人に協力のあいさつをしている時の兄は、すごくか

っこいい。

「すげえ、お兄ちゃん！」
つて言うと、「若手の人に教えてもらうけんこげん出来るようになったとたい。オレもお前に教えるけんしっかりがんばって覚えないかんとよ！」
そう言われた。そんな兄がまたカッコいい。僕もあんな風になりたいと思う。手を引いて一緒に走ってくれていた兄の背中を、今は、追いかけるが走り続けている。でもその兄も、将来こんな風になりたいて尊敬している小父さんの背中を追いかけ続けている。
山笠は、そうやって何百年も続いているんだ・・と、僕は思う。その伝統を受けつぐお手伝いを、僕もやっていると思うと、うれしいけど責任重大だ。

僕がそう思った様に僕より小さい子供達が、僕を見て、そう思える様に、沢山山をかいて勉強して、感動して、山のえらい人や、赤手のごいの人、若手の人達に色々な事を教えてもらって、がんばりたい。
来年は、あこがれの若手の仲間入りだ。ワクワクする。ラムネが飲めなくなるのは残念だが、兄と一緒に走れる。来年の七月、兄の背中はどんな風に見えるだろうか。走るぞー。

近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご参照ください

平成22年

- 4月 第24回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師：大庭宗一氏 (NPO博多の風理事長)
- 5月 第17回 はかたの町クワリーン作戦 (雨天中止)
- 6月 第9回 追山コーヌ探訪 開催
- 第10回 祭童子集まれ楽文コンテスト 実施
- 10月 第18回 はかたの町クワリーン作戦 実施
- 第10回 祭童子集まれ楽文コンテスト表彰式 開催
- 第25回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師：杉浦孝昭氏 (映画評論家)

平成23年

- 4月 第26回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師：高島宗一郎氏 (福岡市長)
- 5月 第19回 はかたの町クワリーン作戦 (雨天中止)
- 6月 第10回 追山コーヌ探訪 開催
- 第11回 祭童子集まれ楽文コンテスト 実施
- 10月 第20回 はかたの町クワリーン作戦 (雨天中止)

NPO博多の風の歩み

■設立

平成10年 9月

任意団体「博多の風」設立 代表：大庭宗一

■NPO登記

平成12年 6月

『NPO博多の風』として登記 理事長：大庭宗一

NPO博多の風事業概要

■啓発事業

- ・博多の風フォーラム開催
- ・広報紙・HP発行
- ・毎日新聞世論フォーラム公聴
- ・作文コンクール(楽文コンテスト)実施

■地域環境向上事業

- ・博多の町観交
- (清掃活動クワリーン作戦・冷泉い学校跡地提言・山笠文化継承)

■活性化事業

- ・書籍出版
- ・博多祇園山笠の振興
- ・追山コーヌ探訪開催

■協力事業

- ・各市民団体との情報交換及び支援

NPO特定非営利活動法人

博多の風

〒812-0027

福岡市博多区下川端町8-16-302

FAX 092-263-7188

E-Mail info@hakatano-kaze.jp

URL <http://hakatano-kaze.jp>